

社会保険労務士法人 D・プロデュースが毎月お送りして
います

ブログも更新中！是非ご覧ください！

<http://d-produce.net/>

Facebook <https://www.facebook.com/d.produce>

Dプロデュース

ご連絡先: 〒231-0012

神奈川県横浜市中区相生町 1-15 第二東商ビル 6F

TEL:045-226-5482 FAX:045-226-5483

E-Mail: info@d-produce.com

HP: <http://www.d-produce.com>



長期治療が必要な「脳卒中」「肝疾患」の 従業員に会社はどう対応する？

ガイドラインの参考資料

厚生労働省は 3 月 1 日、「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」の参考資料として、「脳卒中に関する留意事項」と「肝疾患に関する留意事項」を追加しました。

昨年 2 月に公表されたこのガイドラインでは、疾病を抱える方々の治療と職業生活の両立を支援する企業に向けて、適切な就業上の措置や治療に対する配慮を行い、治療と職業生活が両立できるようにするための取組みなどがまとめられています。

ガイドラインの中には参考資料として「がん」に関する留意事項がありますが、今回、「脳卒中」と「肝疾患」に関する基礎情報と、各疾病について特に留意すべき事項がガイドラインに追加されました。

今回追加した留意事項のポイントをみていきます。

脳卒中に罹患した労働者の両立支援にあたっての留意事項

ガイドラインでは、脳卒中等の脳血管疾患に罹患した労働者に対しての留意事項として、(1)再発等予防・治療のための配慮、(2)障害特性に応じた配慮、(3)復帰後の職場適応とメンタルヘルスを挙げています。

(1)について、会社は、労働者から再発予防の

ために継続した服薬や定期的な通院等の申出があった場合には、必要に応じて配慮することが望ましいとしています。また、痛みやしびれなどの後遺症が残る場合があり、就業上の措置を要する場合があることに留意が必要としています。

(2)については、会社は、産業医等と連携するなどして、障害の程度や内容に応じて、作業転換等の就業上の措置を行うことが求められます。

(3)については、脳卒中を発症し、手足の麻痺や言語障害といった後遺症に悩む労働者の中には、職場復帰後、発症前の自身とのギャップに悩み、メンタルヘルス不調に陥る場合もあるため、注意が必要としています。

肝疾患の両立支援にあたっての留意事項

ガイドラインでは、肝疾患の労働者に対する留意事項として、(1)肝疾患の特徴を踏まえた対応、(2)肝疾患に対する不正確な理解・知識に伴う問題への対応を挙げています。

(1)では、労働者から通院等への配慮の申出があれば、事業者は、海外出張や不規則な勤務を避けるなど、必要な配慮を検討し対応することが望ましいとしています。

また、肝硬変の症状があり、病状が進行している場合、記憶力の低下や瞬時の判断が遅れるなどの症状が出ることもあるため、身体的な負荷は小さくとも車の運転など危険を伴う作業は控える等の措置が必要なこともあるため、個別

に確認が必要であるとしています。

厚生労働省は、今後、ガイドラインの普及や企業に対する各種支援によって疾病を抱える方々が治療と職業生活が両立できるような環境整備に取り組んでいくとしています。

連続プラスが続く 「パートタイマー時給」の最近の相場

関東 4 都県の募集時平均時給は 1,000 円を突破

パートタイマーの平成 28 年 12 月の平均時給は、関東 4 都県(東京、神奈川、埼玉、千葉)で 1,020 円、東日本で 1,000 円でした(アイデム人と仕事研究所が 3 月 3 日に公表した集計結果による)。

職種別では、「専門・技術職」で前年同月比マイナス 88 円の 1,203 円となったほかは、「事務職」「販売・営業職」「フードサービス職」「運輸・通信・保安職」「製造・建設・労務職」「その他」のいずれもプラス 7~68 円で増額しました。

伸び率が高かったのは、「運輸・通信・保安職」の前年同月比プラス 68 円の 1,057 円と、「フードサービス職」の同プラス 12 円の 924 円でした。

西日本の平均時給の伸びは東日本を上回る

関西 3 府県(大阪・京都・兵庫)は 990 円で前年同月比 9 円プラス、西日本は 969 円で同プラス 16 円と、いずれも関東 4 都県の 2 円プラス、東日本の 8 円マイナスを上回りました。

職種別では、東日本と同様、「専門・技術職」で前年同月比マイナス 27 円の 1,267 円となったほかは、いずれも 9~44 円プラスでした。

伸び率が高かったのは「販売・営業職」の前年同月比プラス 44 円の 893 円、次いで「製造・建設・労務職」の同プラス 37 円の 927 円でした。この点は、東日本と異なる結果です。

全体ではプラス傾向だが一部にマイナス 100 円超も

集計結果は平成 24 年 1 月から 48 カ月の推移をみることができますが、全体で、東日本は

970 円から 1,000 円、西日本は 919 円から 969 円と、プラス傾向が続いています。

ところが、「専門・技術職」は前年同月比で東京都区部や神奈川県はマイナス 107 円、京都府はマイナス 200 円と、兵庫県でプラス 108 円となった以外、いずれもマイナスです。

医療・介護・保育業界の人材確保に影響が？

この「専門・技術職」とは、看護師・准看護師、看護助手、薬剤師、歯科衛生士、歯科助手、介護福祉士、介護ヘルパー(2 級以上)、保育士です。

いずれも人手不足が深刻な職種で、時給のマイナスによりさらなる悪化が懸念されます。

厚生労働省では、これらの職種における処遇改善に対する助成金も設けています。活用を検討してみたいかがでしょうか。

改正道路交通法が施行！ 再確認しておきたいポイント

改正道路交通法の改正点

3 月 12 日、改正道路交通法が施行されました。

主な改正点は、(1)準中型運転免許の新設、(2)75 歳以上の高齢運転対策推進(臨時適正検査制度の見直しと、臨時認知機能検査・臨時高齢者講習制度の新設)の 2 点です。

今回は、多くの企業で注意が求められることになる、「準中型運転免許の新設」について、改めてチェックしておきたい点をご案内します。

「準中型免許」とは？

準中型免許は、満 18 歳以上から取得できる免許です。普通免許と中型免許の間に新設され、車両総重量 7.5 トン未満、最大積載量 4.5 トン未満までの自動車(いわゆる「2 トントラック」まで)を運転することができます。

準中型免許で運転できるトラックは、例えば宅配便やコンビニの配送、建設や土木などの資材運送など、利用の範囲が幅広いのが特徴です。

特に運送業界は人手不足が深刻な状況です

が、準中型免許は 18 歳以上であればそれ以前の運転経験を問わずに取得することができますので、高校を卒業してすぐに就職しようとする人や、大学生・専門学校生のアルバイト等、準中型免許の取得により人材の活用の幅が広がる事が期待できます。

事業場の留意点

一方で、普通免許で運転できる車両の範囲が狭くなる(車両総重量 5 トン未満だったものが、改正後は同 3.5 トン未満となる)ことに注意が必要です。

平成 19 年に「中型免許」の導入により運転免許の区分が変更された際には、運転免許証とトラックの自動車検査証の照合を怠った結果、普通免許では運転できないトラックを運転して無資格・無免許運転で検挙され、行政処分を受けるケースが多発しました。

違反自体は単なる「ミス」「勘違い」が原因であったとしても、そこから事故や違反項目が芽づる式に出てくることで、処分が予想以上に厳くなるケースも決して少なくありません。

トラックを運転させる事業場では、各人が運転することができる車両の範囲について、しっかり確認することが求められます。

4 月の税務と労務の手続提出期限 [提出先・納付先]

10 日

源泉徴収税額・住民税特別徴収税額の納付[郵便局または銀行]

雇用保険被保険者資格取得届の提出<前月以降に採用した労働者がいる場合>

[公共職業安定所]

労働保険一括有期事業開始届の提出<前月以降に一括有期事業を開始している場合>

[労働基準監督署]

17 日

給与支払報告に係る給与所得者異動届出

書の提出[市区町村]

5 月 1 日

預金管理状況報告の提出[労働基準監督署]

労働者死傷病報告の提出<休業4日未満、1月～3月分>[労働基準監督署]

健保・厚年保険料の納付[郵便局または銀行]

健康保険印紙受払等報告書の提出[年金事務所]

労働保険印紙保険料納付・納付計器使用状況報告書の提出[公共職業安定所]

外国人雇用状況の届出(雇用保険の被保険者でない場合)<雇入れ・離職の翌月末日>

[公共職業安定所]

公益法人等の法人住民税均等割の申告納付[都道府県・市町村]

編集後記

皆様、こんにちは。社会保険労務士法人 D・プロデュースの山下です。

先日、ユニセフの機関誌を読む機会がありました。

そこには、募金を必要とする諸国の状況や、募金を活用した支援活動の報告等が記されていました。

幾つもの記事が掲載されている中、ひと際目を引く記事がありました。

現在の「シリア」に関するものです。

ニュースや新聞等、皆様もご存知の通り、国内情勢が非常に不安定な国(地域)です。

シリアには、日本とは比較にならない程の困難と共に生きていいる人々がいます。

それは、老若男女、全ての世代に共通であり、子供達も例外ではありません。

シリアでも、育ち盛りの子供達は、陽のあたる地上で思いきり遊びたいはずですが、

しかし、残念ながら、安心して遊べる環境ではありません。

いつ空襲されるか、砲弾や銃弾が飛んでくるかわかりません。

そこで、ボランティアの人たちが、地下空間に子供達が安心して遊べる空間を作ったそうです。

地下空間の遊び場は、複数のトンネルと繋がっているそうです。

子供達の心理的プレッシャーを少しでも解放しようと、

遊び場へ繋がるトンネルにイルミネーションを施す等工夫をしているそうです。

「この先では思いきり遊べる！」

トンネルを速足で駆ける子供達、心拍数が上がるのが想像できます。

さて、我が家には2歳8カ月の娘がおります。

先週末も、近くの公園で遊んできました。

日に日にできることが多くなってきています。

危なっかしい動作にドキドキハラハラの連発ですが、

娘だけの力でできたときに見せる満面の笑みには癒されます。

最近、日本列島の近隣でも緊張が高まっていますが、

陽のあたる場所で子供達が安心して遊べる日本国であり続けなければなりません。

私、個人だけで世界を変えることはできませんが、常にアンテナを張りながら

日々過ごしていきたいと思います。

諸事情により、私(山下)が編集後記を担当するのは、今回が最後となります。

数ヶ月おきに綴るつたない文章を読んで下さった皆様、ありがとうございます。

またどこかで、お会いした際には、宜しく願います。